平成２８年度

全国学力・学習状況調査

調査結果について

藤沢市教育委員会

平成２８年度全国学力・学習状況調査の結果について

１　調査の概要と目的

平成２８年４月、平成２８年度全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

なお、国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて、調査結果を報告するものです。

２　実　施　状　況

（１）調査実施日　平成２８年４月１９日（火）

（２）実施項目　　ア　児童生徒に対する調査

(ｱ)　教科に関する調査　国語、算数・数学
主として「知識」に関する問題（A）
主として「活用」に関する問題（B）

(ｲ)　質問紙調査
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

イ　学校に対する質問紙調査
学校を対象に、指導方法に関する取り組みや学校における人的・物的な教育条件の整備にかかる状況等に関する調査

（３）実施校数　　小学校　３５校　　中学校　１９校

（４）実施人数　　（単位：人）

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B	質問紙
小学校６年生	３,８０３	３,７９９	３,８０３	３,７９９	３,８０１
中学校３年生	３,３１０	３,３０６	３,３０８	３,３０６	３,３０９

３　平均正答率一覧表

（１）藤沢市立小学校平均正答率　　（単位：%）

	国語A	国語B	算数A	算数B
藤沢市（公立）	６９．６	５６．０	７６．７	４６．３
神奈川県（公立）	７０．３	５８．２	７６．６	４７．３
全国（公立）	７２．９	５７．８	７７．６	４７．２

多くの教科において神奈川県及び全国の公立小学校の平均正答率をやや下回っています。

（２）藤沢市立中学校平均正答率　　（単位：%）

	国語A	国語B	数学A	数学B
藤沢市（公立）	７６．８	６８．２	６４．１	４６．１
神奈川県（公立）	７５．４	６７．０	６１．９	４４．３
全国（公立）	７５．６	６６．５	６２．２	４４．１

全ての教科において神奈川県及び全国の公立中学校の平均正答率をやや上回っています。

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率（公立）の±５%の範囲内にあれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

（出典：平成２８年度全国学力・学習状況調査報告書　平成２８年８月　文部科学省　国立教育政策研究所）

４　教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

（１）小学校　国語

ア　成果として認められる事項	イ　課題として考えられる事項
①漢字を正しく読むこと ②目的に応じて、図と表とを関係付けて読むこと ③目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと	①ローマ字で表記されたものを正しく読むこと ②漢字を正しく書くこと ③目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら表現すること

ウ　改善の手立て

①ローマ字については、当該学年での学習にとどまらず、繰り返し読んだり書いたりすることができるようにする必要があります。その際、児童が必要性を感じられるように、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットなど、ローマ字が使われている日常の場面と結びつけながら指導することが大切です。また、パソコンを使用して学習を進める際にローマ字入力に慣れさせることも効果的です。

②漢字を正しく書くためには、日常的に文や文章の中で適切に使うことができるようにすることが重要です。児童が漢字をより身近なものとして捉えられるようにするために、習得した漢字を読んだり書いたりする機会を可能な限り多く、意図的・計画的に設定することが大切です。例えば、日頃から国語科に限らず、各教科の調べ学習や文章で表現・発表するような学習の中でも、積極的に辞書を利用して分からない漢字を調べる機会を設けることは効果的です。

③目的に応じて文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら表現するためには、文章の重要な点、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容などについて注意しながら読み、その上で自分の知識や経験などと関係づけながら自分の考えを明確に持てるようにすることが必要です。その上で求められている内容を、条件に合わせて要約できるよう、引用する部分を検討したり、短く言い換えたりしながらまとめていくような活動を取り入れることが大切です。

（２）小学校　算数

ア　成果として認められる事項	イ　課題として考えられる事項
①繰り下がりのある減法「（3 位数）－（1 位数）」の計算をすること ②不等号を理解していること ③示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べること	①示された式の中の数値の意味を解釈し、それを記述すること ②グラフから正しく情報を読み取り、示された事柄の正誤を文章で記述すること ③示された式の意味を、事象と関連付けながら文章で説明をすること

ウ　改善の手立て

①日常生活に用いられている様々な式について、事象と関連付けて式や数値の意味を解釈する指導にあたっては、数値だけでなく「言葉を含む式」を提示し、事象と式を関連づけながら、式や数値の意味を解釈する場を設けることが考えられます。その際「言葉を含む式」の中の「定数」が何を表しているか問うことによって、その数値の意味に気付くことができるようにすることが効果的です。

②複数のグラフを比較するときは、それぞれの目盛りの大きさなどに留意して的確に読み取ることができるようにすることが大切です。指導にあたっては、複数の折れ線グラフを提示し、比較する場面を取り上げて変化の大きさや増え方の大きさの違いについて話し合う活動が考えられます。話し合いによって理解できたこと、学んだことなどについては、文章に書かせてまとめさせることが有効です。

③算数科の学習においては、言葉や数、式、図、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり、他者にわかりやすく説明したりできることが大切です。指導にあたっては、数式と図を提示し、数式の中の数字が図の中ではどの部分にあたるのか考え、説明し合う活動が有効です。また、話し合いで明らかになった式の意味について、文章でノートに説明を書く活動を授業の中で適宜取り入れることが効果的です。

（３）中学校　国語

ア　成果として認められる事項	イ　課題として考えられる事項
①辞書を活用し、漢字が表している意味を正しく捉えること ②互いの発言を検討して自分の考えを広げること ③奥付を使って本についての情報を得ること	①課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えて書くこと ②本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くこと ③文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと

ウ　改善の手立て

① 自ら情報収集しながら課題解決を図る学習の際には、新聞や雑誌、コンピュータや情報通信ネットワークなどの様々な情報手段、学校図書館などを活用する必要があります。その際、解決までの見通しをもち、状況に応じて適切な情報収集の方法を選択するように指導することが大切です。学校図書館の活用にあたっては、小学校での学習内容を踏まえ、日本十進分類法や本の配置についての知識を生かしたり、コンピュータを使って検索したりするなど、複数の情報収集の方法を考えるように指導することが重要です。また、収集の方法や情報の適否について交流したり、調べたことを書いたり発表したりするなど、言語活動を取り入れた協働的な学習を展開することも大切です。

② 文学的な文章を読む際に、必要に応じて語注や脚注、百科事典や図鑑などの資料を参考にし、そこから得た情報を補足することによって、場面の様子などについてより想像を広げたり理解を深めたりすることができる場合があります。そのためには、学校図書館や地域の図書館、公共施設、あるいはコンピュータや情報通信ネットワークなど、それぞれの特徴を生かした適切な情報収集の方法を身に付けることが大切です。また、資料から得た情報を踏まえることでより想像が広がったり理解が深まったりした内容について、根拠を明確にして書いたり説明し合ったりすることが必要です。

③ 文章の構成や展開、表現の仕方とその効果について考えることは、様々な文章を目的に沿って読むことにつながり、また自分で文章を書く際に目的に応じて表現の工夫をすることにも役立ちます。効果的な学習活動例として、ちらしやポスター、パンフレットなどを集め、構成や展開、表現の仕方について分析するとともに、そのような表現をした書き手の目的や意図を考えたり、その効果について考えたりする方法が考えられます。さらに、実際に学校生活などに関わるちらしを作成し、書き手の立場で表現の工夫について説明したり、読み手の立場でその工夫が効果的かどうかについて検討したりするなどの学習活動も有効です。考えたことを文章にまとめる際には、どの部分に着目してどのような効果があると考えたのかなどについて、具体的に書くよう指導する必要があります。

（４）中学校　数学

ア　成果として認められる事項	イ　課題として考えられる事項
①具体的な場面で数量の関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形すること ②多角形の外角の和の性質を理解すること ③条件を基に、表から数量の変化や対応の特徴を捉え、χの値に対応するｙの値を求めること	①前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明すること ②与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現すること ③与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明すること

ウ　改善の手立て

①効果的な学習指導としては、答えが複数存在する問題について考察する場面を設定し、付加する条件を判断し、それが適している理由を考え、生徒同士で互いに説明したり、文章にまとめるような指導が考えられます。条件が適している理由だけでなく、適していない条件についても理由が説明できるようにすることが大切です。なお、比例、反比例、一次関数の場面だけでなく、関数$y=ax^2$においても同様の場面を設定することも効果的です。

②目的に応じて資料を調査・整理し、資料の傾向を読み取り、構想を立てて解決に取り組む活動を取り入れることは、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けて大切な学習活動です。数学の学習においては、整理した資料の分布の特徴を捉えて、説明すべき事柄とその根拠を話し合い、説明したり文章にまとめたりする活動が有効です。その際、代表値（平均値、最頻値）や相対度数の意味の理解を確認しておく必要もあります。このような学習活動が日常生活や社会の不確定な事象における問題の解決につながります。

③学習指導にあたって、文字を用いて処理した手順を数学的に考察する場面を設定することが有効です。その際「５a＋１０」を「aの値を５倍して１０をたした数」として言葉に変換して式を読み取り、問題解決の方法を説明したり、文章にまとめたりすることが大切です。また、数学的な処理の手順を新たなルールで変えて考えさせる場面を設定することで、学習した問題解決の過程を振り返って考えることができるようにすることも有効です。

５　児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴と改善のポイント

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというとあてはまる」と回答した比率を合計しています。

（１）特徴

	質問項目	児童	生徒
学習に関する関心・意欲等	国語の勉強が好き	56.0%	55.8%
	国語の勉強は大切だ	90.5%	85.3%
	読書が好き	69.9%	66.0%
	国語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つ	87.3%	80.7%
	国語の授業で意見などを発表するとき，うまく伝わるように話の組み立てを工夫している	60.2%	62.2%
	国語の授業で自分の考えを書くとき，考えの理由が分かるように気を付けて書いている	71.6%	67.8%
	算数・数学の勉強が好き	63.9%	58.0%
	算数・数学の勉強は大切だ	90.2%	74.2%
	算数・数学の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考える	78.4%	73.0%
	算数・数学の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つ	87.3%	64.4%
	「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは，普段の生活や社会に出たときに役に立つ	80.8%	63.8%
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.5%	94.0%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	78.1%	73.0%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	88.9%	88.3%
	平日，１日当たり２時間以上テレビやビデオ・ＤＶＤを視聴する	57.6%	47.8%
	平日，１日当たり２時間以上，テレビゲームをする	30.5%	35.1%
	平日，１日当たり２時間以上，携帯電話やスマートフォンの通話やメール，インターネットを利用する	10.7%	33.3%

学習習慣・学習時間	家で，自分で計画を立てて勉強をしている		56.8%	45.4%
	家で，学校の宿題をしている		96.1%	85.3%
	家で，学校の授業の予習をしている		38.4%	35.3%
	家で，学校の授業の復習をしている		42.4%	37.8%
	平日に学校以外で勉強する時間	２時間以上	27.9%	47.1%
		１～２時間	24.2%	24.3%
		３０分～１時間	27.1%	13.4%
		３０分より少ないか全くしない	15.8%	8.3%
学習状況	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意		52.0%	47.4%
	４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を書くことは難しい		54.6%	59.4%
	自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しい		53.2%	60.7%
	学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいた		76.2%	75.6%
	授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていた		79.3%	62.8%
その他	自分には，よいところがあると思いますか		75.0%	70.2%
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をする		80.2%	73.0%
	学校に行くのは楽しい		86.8%	79.9%

（２）改善のポイント

「学習に関する関心・意欲等」については、国語、算数・数学について、「大切」だと回答した児童生徒は約７４％～９０％と高い割合となっています。しかし、大切だと考える児童生徒が多い結果にもかかわらず、「好き」であると回答した児童生徒は約５６％～６４％という状況です。その教科が「好き」であることが、学習意欲にもつながることから、学校は児童生徒にとって興味関心を高める授業づくりを行っていくことが大切です。

「生活習慣」については、学力との関係の中で、朝食の摂取率が良好であることが望ましいとされています。本市児童生徒は毎日朝食を摂取している割合が約９５％と高くなっています。しかし、１日２時間以上のテレビ等の視聴、ゲーム、携帯やスマホ等の使用については、割合が高く、課題が見られます。日常生活における時間の使い方については、家庭学習への取組も含めて、改善につとめることが大切です。

「学習習慣・学習時間」については、平日に学校以外で勉強する児童生徒が多いにもかかわらず、学校の授業の復習をしている割合は低くなっています。基礎学力の定着という観点から、家庭での学習内容、学習時間など自分で計画を立てて勉強していくことができるよう「生活習慣」同様、改善していくことが大切です。

「生活習慣」「学習習慣」の改善については、家庭に対し働きかけていく必要があります。

6　考察

今回の調査結果から、知識に関する問題では、「漢字を正しく書くことや文脈に即して正しく読むこと」「ローマ字で表記されたものを正しく読むこと」「計算すること」「空間図形における面や直線の位置関係を理解すること」など、基礎的基本的な知識・技能の定着に課題が見られました。この傾向は、ここ数年間の調査結果においても同様であり、改善のためには、これまでも取り組んできた授業の中で反復練習を取り入れたり、児童生徒同士の話し合い活動を通して考えを深めたりする学習を、ひき続き充実させていく必要があります。

活用に関する問題において、国語については「文章や資料の中から必要な情報をとらえ、その情報を基に自分の考えを書くこと」、算数・数学については「式の意味を表やグラフと関係づけながら説明すること」「日常の事象を数学的な表現を用いて説明すること」などに課題がありました。この課題については、昨年度も同様の傾向がみられました。思考力・判断力・表現力を身につけていくための活用学習のあり方に課題があると考えています。基礎的知識の習得に加え、身についた知識を実際の生活の中で活用する学習場面を増やしたり、学習したことがどのような場面で日常生活に利用されているのかを考える授業展開を工夫したりする必要があります。その際、考えたことを文章にしたり発表させたりする活動を多く取り入れ、児童生徒が表現する力をより一層高められるように配慮していくことも重要です。

小学校では、教科に関わらず、無答の割合が高い傾向が見られました。日々の授業の中で一つひとつの課題に対し、自分なりの考えが持てるような指導を工夫していくことが大切です。

基礎基本の定着には、学校で学んだことをくり返し復習し、新たに学ぶことについては予習する必要があります。家庭において計画を立てて予習復習することができるよう、家庭学習の仕方について、一人ひとりの状況に応じて指導していくことが大切です。

7　今後の教育活動に向けて

（1）　教育委員会における今後の取り組み

ア　今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ　本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、昨年度から引き続いて課題がみられることから、改善に向けた工夫や取り組みの必要性を学校に対して働きかけていきます。

ウ　基礎的基本的な知識技能の定着に向けて、一人ひとりにきめ細かな支援等を行う「支援教育」の考え方に基づき、各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導主事による「わかる授業づくり」の指導を行います。

　また、教員のキャリアステージごとに経験者研修を実施するとともに、学校人材育成支援員を派遣し、教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ　教育文化センターにおいて、「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、授業力向上にむけたスキルアップを図ります。

オ　就寝・起床時刻が不規則であったり、テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン等を利用している時間が長い傾向にあったりする児童生徒が多くいます。規則的に就寝・起床することや、テレビやゲーム、携帯電話等は時間や約束を決めて使用することなど、好ましい生活習慣の確立は学力と密接な関係があることから、基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、保護者に向けて、家庭での時間の使い方について改善していくよう働きかけを行います。

（２）　学校における今後の取り組み

ア　全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ　児童生徒への調査によると「国語や算数・数学が好き」「学んだことは生活の役に立つ」という意識が低い傾向にあります。すべての児童生徒にとって分かりやすい、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを工夫し授業改善を図るとともに、学習したことが実生活の中でどのように活かされているのかが実感できるような学習展開を工夫し、興味関心を高めていきます。

ウ　中学校では、生徒間で話し合う活動や、自分たちで課題を立て、その解決に向けて情報収集し、話し合いながら整理し発表するなどの学習活動に取り組んでいるという生徒の割合が高いことがわかりました。小学校でも、各教科や総合的な学習の時間などを使い、自ら課題を設定し計画を立てて取り組む学習や問題解決学習、体験学習、言語活動などを意図的に取り入れ、児童が主体的・対話的に深く学ぶ機会を増やしていくことにより、知識・技能や思考力・判断力・表現力等の育成を図ります。

エ　家庭と連携しながら、自ら計画を立てて予習復習を行う学習習慣の確立や生活習慣の改善に向けた取り組みを行います。

保護者の皆様へ

児童生徒質問紙の内容から、学習習慣や生活習慣についてご家庭において考えていただきたいことが見えてきました。お子様と話し合う時間をとっていただき、日々の生活を見直してみてください。

☆基礎学力の定着のためには学校での学習をしっかりと行うだけでなく、家庭での学習が必要です。家庭学習の際には教科書を基にした学校の授業の予習、復習を取り入れるよう工夫してください。

☆日々の充実した学校生活の基盤として「早寝早起き朝ごはん」の生活習慣が大切になります。朝食の摂取率については良好な結果がみられましたが、毎日同じくらいの時刻に寝たり起きたりすることに課題が見られますので、基本的な生活習慣の定着に向け、ご協力をお願いします。

☆放課後の時間の使い方で、テレビやビデオの視聴、ゲームやスマートフォンの使用にあてる時間の長いお子様が見られます。家庭での時間の使い方について、話し合ってみてください。